

2019年6月12日
株式会社幹細胞&デバイス研究所
<http://scad-kyoto.com/>

「令和元年度戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)」採択のお知らせ

当社の研究開発計画が、経済産業省中小企業庁が実施する「令和元年度戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)」に採択されたことを、お知らせいたします。

「サポイン事業」は、「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律」に関する支援策の一環として、同法に基づき「特定研究開発等計画」の認定を受けた中小企業者等が産学官連携などにより、ものづくり基盤技術の高度化を図るための研究開発、試作品開発等の取組を促進することを目的として行うものです。なお、当法律にもとづき、当社が申請した「特定研究開発等計画」は今年5月に認定されております。

当社は、公益財団法人京都高度技術研究所、および学校法人東北工業大学と連携して実施する研究開発計画「配向性ファイバー足場で培養した神経細胞とこれを用いた薬の有効性と毒性を信頼性高く評価できる試験法の開発」を提案しておりましたが、採択件数137件のひとつとして採択されました。今後当社では、当社技術を発展させ、iPS細胞由来神経細胞を用いた薬の有効性と毒性を評価する試験法の開発を進めて参ります。

細胞培養に際しては、当社のファイバー足場技術を用いることにより、神経細胞は配向性を持ち、かつ3次元の多層構造となることが特徴です。このため、従来の方向性のない2次元平面培養方法と比較すると、生体内の神経細胞の状態により近づけることで、細胞の機能性が引き出されます。

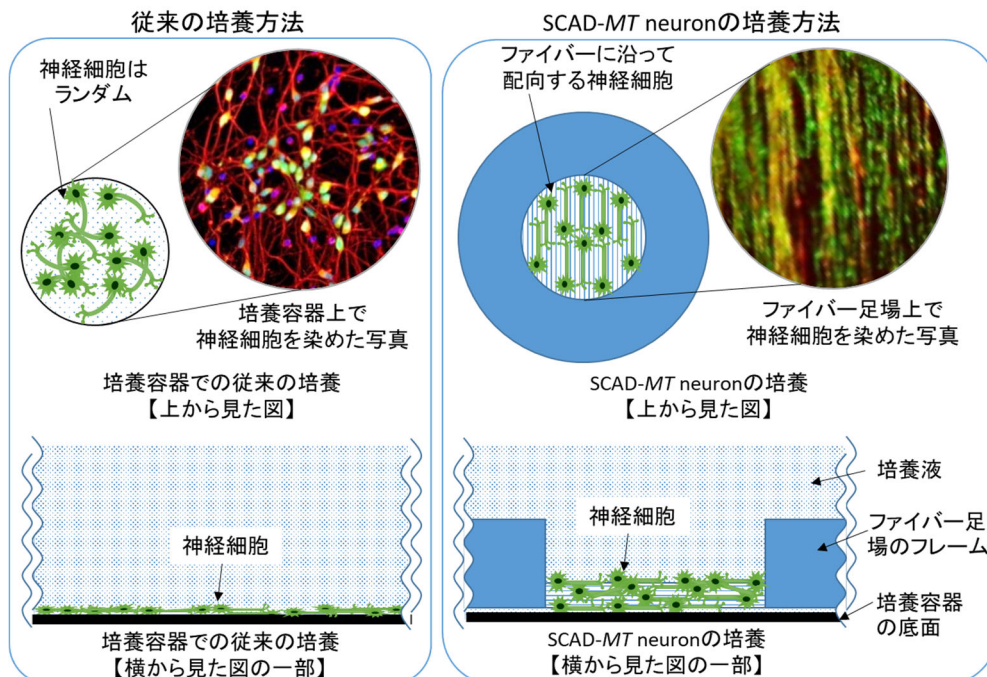


図 従来の神経細胞の2次元培養と当社の神経細胞 SCAD-MT neuron の培養の比較

Press Release



なお、当社は昨年12月、内閣府より国家戦略特別区域における事業計画(血液由来特定研究用具製造事業)が認定され、法律によって規制されている「患者血液からiPS細胞を作成、細胞組織を生産し、これを事業とすること」が認定されました。この特区認定と合わせ、当研究開発及びその後の開発によって、神経疾患の患者様由来のiPS細胞から、当社が疾患細胞(疾患を再現した細胞)を作製し、治療効果を有する薬の初期的な探索を実施することで、治療法開発への貢献を目指します。

当社では、当支援事業の採択により事業化を一層加速させ、雇用創出など地域社会の発展と健康社会の向上に貢献して参ります。

【株式会社幹細胞&デバイス研究所(SCAD)について】

株式会社幹細胞&デバイス研究所(Stem Cell & Device Laboratory, Inc. 略称 SCAD)は、多能性幹細胞関連技術とナノテクノロジー/マイクロエンジニアリングに強みを持つ京都大学発のベンチャー企業です。

当社は、2014年の設立以来、心筋、神経等の細胞デバイスの開発・製造・販売を行っています。緻密に配向制御したナノファイバー上で培養することで多数の細胞を一方向に配列させ、実際の生体内組織に類似した三次元多層構造を自律的に形成させることができます。この当社のコア技術により作製される各種細胞デバイスは高い成熟性と機能性を有することが示されております。

当社は先進的な細胞製品とそれを用いた評価系の提供を通じて、世界中の病気で苦しむ人々に一刻でも早く新薬を送り届けられるように、創薬プロセスの高度化と効率化に貢献することを使命として、技術開発と事業化に取り組んでいます。

【本件に関するお問い合わせ先】

東北工業大学 研究支援センター 守、佐藤
TEL:022-305-3800; E-mail: rs-center@tohtech.ac.jp

株式会社幹細胞&デバイス研究所 経営管理室 千秋
TEL: 075-744-1114; E-mail: scad.info@scad-kyoto.com